

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 図書館

会議の名称	令和元年度第1回図書館協議会		
開催日時	令和元年6月20日(木) 午後4時00分～5時30分		
開催場所	茅野市図書館 2階会議室		
出席者	矢崎智義、岩崎和子、両角薫、伊藤英一郎、下平香代子、戸田茂生、轟洋太、百瀬るみ、矢崎進一 山田教育長、平出生涯学習部長、藤森生涯学習課長、辻井図書館長、濱主事		
欠席者	原猛、三代沢正、田村満理		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容		
生涯学習課長 教育長	<p>1 開会</p> <p>2 教育長あいさつ 今年から委員になられた6名の方々よろしくお願ひいたします。図書館に来てみたら、1階の0類総記のコーナーでご年輩の方が一生懸命ノートを取り、調べものをしていた。その姿を見たら、こちらまできゅっとした気持ちになった。茅野市には尖石考古館、八ヶ岳総合博物館、図書館、市民館・美術館、守矢史料館といった文化的な施設があるが、この中で図書館はすべての人にとって平等で、市民の役に立ち、自分自身を磨いていく、そのことが地域を作り上げていく。そんな図書館をこれからも目指していきたいと思う。</p> <p>5月31日に地方分権一括法という法律が成立した。今まで図書館などの社会教育施設は教育委員会の所管だったわけだが、地方自治体の判断によって首長部局に移してもよい。ということが法律で決まった。美術館や図書館が産業商業の所管に移す市町村もいくつかある。ただやはり社会教育施設が守るのは人類の文化と知恵。茅野市図書館や社会教育施設はあくまでも市でやっていきたいと教育委員会では考えている。様々な動きが始まっていくと思うが、これからもよろしくお願ひします。</p> <p>3 委嘱書の交付 各委員に教育長から委嘱書を手渡す。</p> <p>4 自己紹介</p> <p>5 審議会の公開について ※会議の公開及び非公開事項について説明。 本日の会議については公開とすることを決定する。</p>		
図書館長			

	<p>6 会議事項</p> <p>(1) 正副委員長の選出</p>
生涯学習課長	<p>2年任期の1年目となるので、正副委員長がまだ決まっておりません。ここで委員長・副委員長の選任をしたいと思いますが、どのようにしたらよろしいかお諮りいたします。</p>
委員	<p>事務局一任でお願いします。</p>
生涯学習課長	<p>ただいま事務局一任という意見が出ましたが、よろしいでしょうか。それでは事務局の方で腹案をお願いいたします。</p>
図書館長	<p>委員長に矢崎智義委員、副委員長に岩崎和子委員をお願いしたいと思いません。よろしければ拍手により承認をお願いいたします。</p> <p>(拍手)</p>
生涯学習課長	<p>ただ今の事務局案でよろしいでしょうか。</p> <p>(異議は無かった)</p>
生涯学習課長	<p>正副委員長が就任されたところで、一言ずつご挨拶いただけたらと思いません。</p>
委員長	<p>新しい委員の方々といっしょに仕事ができること本当にうれしく思います。各段階の先生方、農業をやってらっしゃる方、ご商売をやってらっしゃる方、会社の社長さん、工業をずっとやってらっしゃる方々、そういった経験や立場から図書館を見ていただいご意見いただける。そのことは茅野市図書館にとって市民の役に立つことになると思う。図書館の仕事は、忙しい時間を割いていただくだけの価値があるかと思う。図書館には毎日300人～500人ぐらいの方が来る。利用者の3分の1ぐらいが60歳以上で、図書館はボケを防止する力もある。一般書の貸出が14万冊ほどあるが、児童書は8万冊。子どもたちが自分の将来を考える際に手助けできるような力があると思う。また生活に困った人、苦しい人にもそういった生活から抜け出せるようなヒントも与えることができると思う。病気の人に対しては、闘病記などがあるため希望を与えることができると思う。残念なことにビジネスマンの利用は少ないが、仕事のヒントになるようなことはたくさんあると思う。平成17年の図書館リニューアルのときから関わらせていただいているが、図書館の持っている潜在能力をそこで知った。図書館の持っている力を多くの市民に享受してもらいたい。ぜひ、みなさんの経験を活かしていただいて、図書館がよりよくなるような形でご協力いただけたらと思う。</p>
副委員長	<p>新しい委員さんの顔ぶれを見て、とてもほっとした思いでいる。新委員さんの中には図書館へあまり足を運んでいなかった方もいるということで、これこそ大事なことだと思う。その自分の立場からこんな図書館があったらいいな、と思うアイデアが一番湧く方なのでこれは楽しみだと思っている。茅野市図書館の大きな特色は、分室をたくさん持っていることだと思</p>

	<p>う。これは他にない宝物であるため、新しい委員さんといっしょに分室を活かして身近にある図書館、学校図書館など図書館は茅野市中にあるという雰囲気をもっと活かして何かできたらいいなと思っている。</p> <p>(2) 茅野市図書館の現況について</p> <p>(3) 令和元年度の茅野市図書館運営について</p>
委員	<p>今年度の重点目標でJOMONライフフェスティバルを見据えた資料の活用ということで、粛々とやっていけたらいいのではないかと思います。利用者が多い図書館は建物の天井が高くて吹き抜けになっていたり、そういったところで利用者が増えているのではないかと思います。茅野市図書館は築年数39年ということで差があるのではないかと思います。</p>
委員	<p>学校での様々な活動の中に、地域の方も入っていただいて子どもたちが本に親しむことのできる機会が多くあると感じた。先日地区コミュニティーに行った際、下校後の子どもたちが何人かいて、分室とはいえ本がたくさんあることに驚いた。学校から立ち寄った子どもたちが本に触れる機会があるということはあるがたいなと感じる。学校と図書館との連携ということで情報提供という仕組みもありがたいと感じた。学校図書館、分室、図書館が親子でも利用できる空間にできればいいなと思う。</p>
委員長	<p>図書館リニューアルの際に気を付けたことがある。飲食コーナーを作ること、エレベーターを作ること、座る席を増やすことに気を付けた。</p>
委員	<p>図書館の機能というものを考えたときに、図書館は勉強するところ、情報提供の場などがあると思う。普遍的なものは置いてあると思うが、ビジネスマンとして考えたときに今ほしい本がない。図書館に置いてある蔵書類ではベースのものはあっても、世の中の情報を知るのに、それを図書館で得ることができるのかと考えてしまう。どうしてもネットを使ってしまう。そう考えたときに図書館が果たすべき機能や、提供すべき情報と利用の実態が合っているのかという気はする。利用の少ない中間層など幅広い世代にどうアプローチすべきかということが課題かなと感じる。</p>
委員長	<p>図書館の流行のようなものがあって、リーマンショックのときに図書館で何ができるか考えて作ったのが浦安の図書館のビジネス支援だった。ビジネスを支援するために特許情報の本を入れたり、そういう形で支援をしていった。茅野市図書館でも入ってすぐのところにビジネスコーナーを作った。ビジネス関係書を分類関係なく、まとめた。企業のために必要なもの、パソコン関係のものなどある程度の役に立てるものがある。</p>
委員	<p>だとすると、認識がまだ低かったのかと思う。よりアピールして図書館のことを発信していく必要があると思う。</p>
委員長	<p>あとは公立諏訪東京理科大学の図書館との提携だと思う。大学図書館には工学系やビジネス系の本があるので、そことうまく提携をしていけば、あ</p>

	<p>る程度は緩和できるかなと思う。</p>
委員	<p>学校図書館があるためある程度はやむを得ないのかと思うが、中学生の年代の子の利用が少ないことが気になった。学校図書館にあるもので蔵書の検索ができたと思うが、時代的に今の中学生が調べものをしようと思ったら、最初にインターネットを利用しがち。授業や調べ学習などでインターネットは手軽で便利ではあるけれど、信憑性を見抜くのに難しいので最後は文献にあたりましようかと伝えている。学校図書館から検索で茅野市図書館の蔵書を調べることができるものがあったように思うが、</p>
図書館長	<p>小中学校図書館から茅野市図書館の情報を見ることはできる。茅野市図書館から小中学校図書館の情報を見ることはできない。インターネット「すわズラ～」というサイトから諏訪地域6市町村内の図書館の蔵書を検索できるようになっている。インターネットの登録をすると、予約や貸出中の本の延長などが24時間利用できる。検索だけなら登録をしなくてもできる。</p>
委員	<p>夏休み中の宿題のひとつで調べ学習というものがある。夏休み中も学校図書館は何日か開放をしているが、学校図書館に誰も来ないことがあった。どこに行き調べているのだろうと思うが、茅野市図書館へ来て調べている子もいるとは思いますが、そうじゃない子たちをどうすれば結びつけられるのかなと思う。そういったところで、文献や図書館とつなげるためにすわズラ～というものがあるのなら、ありがたいことだと感じた。中学生でこのサイトのことを知っている子はいるのか、どうか。</p>
図書館長	<p>知っている子は少ないように思う。ここの図書館は場所的に自分だけで来ることができない。そうすると親御さんといっしょに図書館へ来るようになり、中学生高校生になると親御さんといっしょにくるという子が減ってくる。そうすると本に親しんでない子が増え、すわズラ～にも関心のない子が多いかもしれない。</p>
委員	<p>分室で予約をして本の取り寄せをお願いすることはできるのか。</p>
図書館長	<p>できます。茅野市所蔵の本に限るが、分室と本館がネットワークでつながっており、分室で所蔵していない本でも市内の他の分室や本館にあれば、予約をかけて取り寄せをすることができる。物流については、毎週火曜日と木曜日に回っており、本館・分室・市民館図書室・学校図書館で本を回している。学校図書館からの予約についても、物流のトラックに本を乗せて学校や分室に寄って物流は回っている。茅野市以外の6市町村の所蔵本については、紛失や用意に時間がかかることがあり、他市の本を分室に届けることはできない。</p>
委員	<p>こういった方法があるということを学校で周知したいと思う。</p>
委員	<p>茅野市図書館の貸出期間は3週間。他の6市町村の貸出期間は2週間ということで、原村図書館を利用することがあるが、茅野市よりもすぐに返さ</p>

	<p>なきやいけないと思っていた。貸出のときは返却日を聞くだけで貸出期間を意識していなかった。毎日少しずつ本を読む人にとっては、3週間という貸出期間はとても良い時間だと思った。原村図書館の貸出冊数は20冊だが、多くても結局読めなくて本を返している。やっぱり貸出冊数よりも時間が大事だと思った。</p>
委員	<p>富士見町図書館、原村図書館の貸出については毎年新聞やテレビで報道されており、なぜそんなに多いのかと思う。</p> <p>茅野市図書館には読みたい本がない。という声も聞く。予算が他市町村と比べて少ないことから、行政側にご理解いただいて、予算の確保が必要かと思う。また図書館と学校司書会で連携できることがあると思うので、すわズラ～や物流の関係を積極的に学校の方と連携しながら発信していただき、より図書館へ足を運んで利用していただくことを考えていけたらと思う。リクエストはあるのか。</p>
図書館長	<p>リクエストは受けている。大人の方はリクエストをされている。よく利用してくれている若年層の方は、リクエストができるということを知っているが、勉強だけに利用する方は本を特に見ず帰ってしまう。利用者は多いが、本を借りていく人が少ない。</p>
委員	<p>原村・富士見町図書館はなぜこんなにも貸出冊数が多いと考えているか。</p>
図書館長	<p>はっきりとした数字はわからないが、蔵書がかなりちがうと思う。感覚的になるが、富士見町図書館では雑誌・マンガのタイトルが多い。原村図書館は新しいマンガや、ライトノベルが入っている。また園や学校がとても近いので、図書館へ寄りやすいということも考えられる。町村の方が調べものというよりは、読書(読み物)の方に予算を割いている印象がある。</p>
委員	<p>保育園でも園の図書を園児に貸出しているが、保育園にある絵本を買い足していくには予算的にも限界がある。そういったところを求めて茅野市図書館を魅力的に感じて通っているのかなと感じた。保育士も図書館へ来て、何冊か借りて読み聞かせをしている。要望として、学校との連携だけでなく、保育園との連携もお願いしたい。小中学校には司書さんがいるが、保育園にはいない。園長や保育士の知識の範囲内で本の処分の検討、修理などを行っている。そういった面で視野や知識を図書館と連携して行くことで広めたい。</p>
委員長	<p>団体貸出は保育園にもしているか。</p>
図書館長	<p>している。保育士さんがきて、100冊単位で貸出している。保育園の名前の図書カードは全園が持っているわけではなく、申し出があった園にカードを作っている。貸出期間は3ヶ月と長くしている。</p>
副委員長	<p>茅野市は子どもや大人それぞれの方と接する場所が多くあり充実していると思う。図書館は貸出数などそういったものだけを追っていくのではなく、</p>

子どもや大人と接する場所を支えていくという大きな使命があるとみなさんの話を聞きながら思った。茅野市に訪れた方がそのファイル資料を見ればなんでもわかるお店のチラシ、地図などのパンフレットを保管するファイル資料が大事になってくると思う。図書館だけで全部のファイル資料を集めることは困難だと思う。委員みなさんの立場からつながって、茅野市をまるごと図書館にするような、どこに行っても、学びができるそのような雰囲気を図書館がそれぞれにサポートしながらつながっていくと豊かになるのではないだろうか。図書館のポリシーを持って出先のところと連携していけたら、大きな大きなネットのような図書館になると思う。

小中学生の利用率が低いことについては、あまり重要視していない。茅野市は高低差があり、自転車で通うわけにもいかず、親の車を当てにするしかない現状なため、利用は難しい。そこで分室が役に立つのだと思う。分室だけだと、寄れる子寄れない子がいたり、中学生になるとなかなか寄らない子が増える。そのときに、分室と学校図書館がうまく連携して、学校図書館にはない本を分室で見たり、そんな茅野市の読書環境を広い絵のような地図を描いていけたらと思う。ネットで済ませる環境と、自分の心を支えて丈夫にしていってくれる読書環境その両方を理解してやっていく必要があると思う。限られた財源の中で、この施設で何が楽しくて人の心をほっとさせられる仕事なのかを委員のみなさんといっしょに考えていけたらと思う。

(4)その他

- ・施策評価シートについて図書館長から説明。
- ・第9次地方分権一括法の概要について生涯学習課長から説明。

生涯学習課長

以上で、令和元年度第1回茅野市図書館協議会を閉会といたします。ありがとうございました。